

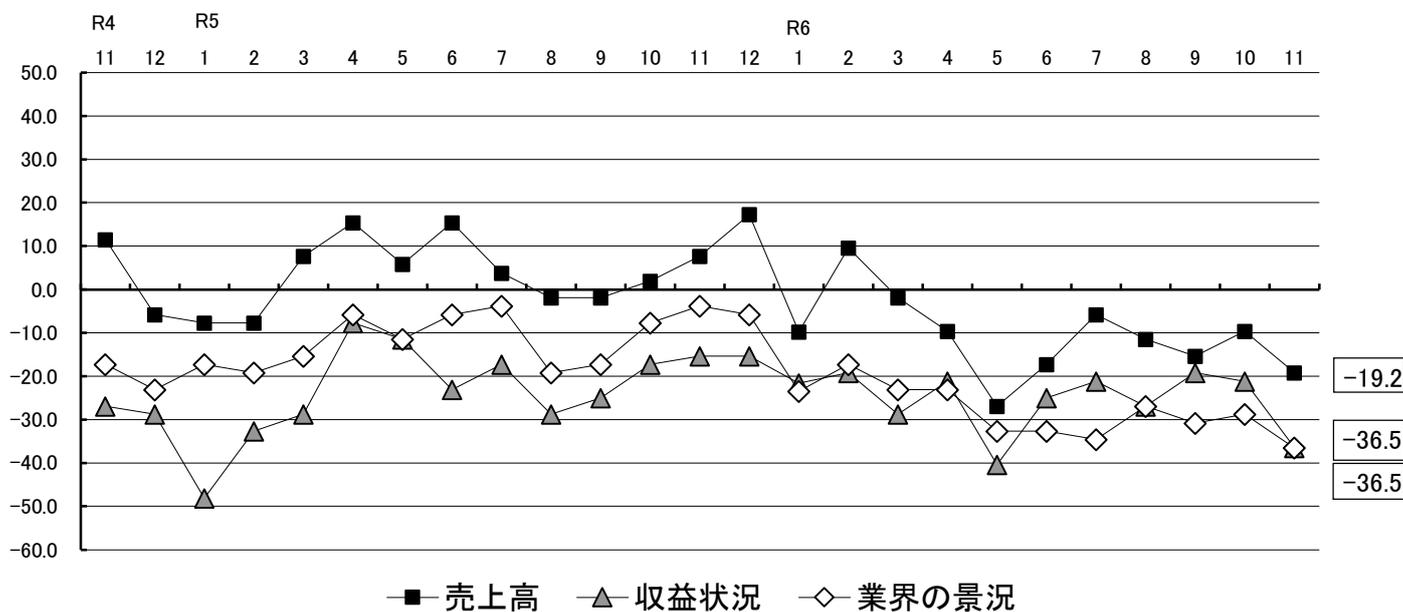
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和6年 11 月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員 5 名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 11月の前年同月比DI値は、前月と比べて、主要3指標では「売上高」「収益状況」「業界の景況」のすべてが、低下となった。その他の指標では、「販売価格」「取引条件」の2指標が上昇し、「資金繰り」「設備操業度」「雇用人員」の3指標が低下した。「在庫数量」においては、前月と同様であった。
- 引き続き、正規及び非正規を問わず人材確保の問題に苦戦しており、多くの業種で収益力の足かせとなっている。また、最低賃金の引き上げにより賃上げの原資確保に苦戦する声が多数寄せられた。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-19.2	-9.6	-3.9	7.2
収益状況	-36.5	-15.4	-23.0	2.3
業界の景況	-36.5	-7.7	-24.3	2.0

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より9.6ポイント低下し-19.2ポイントとなった。全国においては、前月より7.2ポイント上昇し、-3.9ポイントとなった。

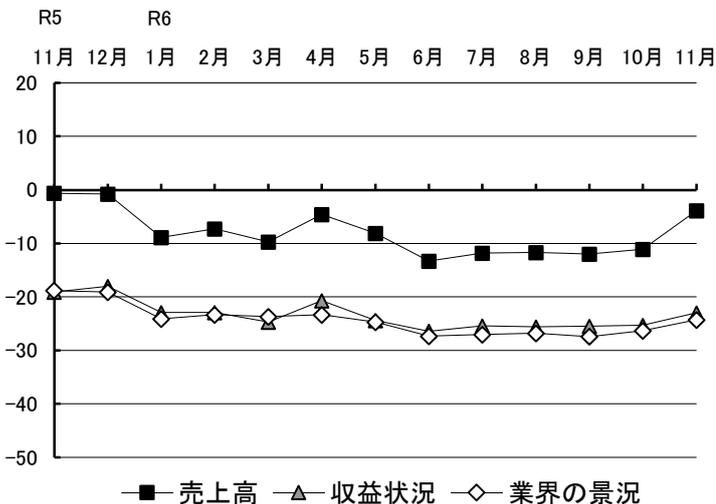
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より15.4ポイント低下し-36.5ポイントとなった。全国においては、前月より2.3ポイント上昇し、-23.0ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より7.7ポイント低下し-36.5ポイントであった。全国においては、前月より2.0ポイント上昇し、-24.3ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

11月の前年同月比DI値は、図表2のとおり前月と比べ2指標が上昇し6指標が低下した。

主要3指標では「売上高」は9.6ポイント低下、「収益状況」は15.4ポイント低下、「業界の景況」は7.7ポイント低下となった。

製造業のうち「窯業・土石」では、イベントで多くの来場者数があり売上を伸ばす店舗も見られた。一方、「鉄鋼・金属」「一般機器」で、電気料金等の経費増加による収益悪化や受注量の減少に伴う売上減少が見受けられる。

非製造業においては、「卸売業」で値上げが落ち着いてきたものの、原材料の高止まりが続いており収益を圧迫している。さらに、輸入関連で円安の影響によりコストの増加が見られる。「小売業」では、11月まで暖かさが残った影響で、原材料の確保難や冬物購買が低迷する状況であった。

それでも、ブラックフライデーや秋のイベント等により来客数が増えたことで、一部業種では「売上」「収益」が回復した。一方で、原材料及び光熱費等の高騰により景況感は回復しない状況であり、様々な業種において価格の見直しが検討されている。なお、依然として全業種とも人材の確保は改善されていないままである。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-25.0	-25.0	25.0	-25.0	-50.0	-50.0	0.0	0.0	-75.0
繊維・同製品	50.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	-25.0
木材・木製品	-50.0	0.0	0.0	0.0	-50.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	0.0	25.0	25.0	-25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
鉄鋼・金属	-75.0	-25.0	25.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0
一般機器	-50.0	50.0	25.0	0.0	-75.0	-25.0	-50.0	0.0	-50.0
製造業	-28.0	4.0	32.0	-8.0	-36.0	-20.0	-20.0	-4.0	-40.0
卸売業	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3	-33.3		-33.3	-33.3
小売業	-28.6	-28.6	28.6	-28.6	-57.1	-42.9		0.0	-57.1
サービス業	66.7		50.0	16.7	0.0	-33.3		-33.3	0.0
建設業	-40.0		20.0	0.0	-60.0	-20.0		-40.0	-60.0
運輸業	-50.0		0.0	0.0	-50.0	-25.0		0.0	-25.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-11.1	-20.0	22.2	-3.7	-37.0	-29.6		-18.5	-33.3
全体	-19.2	-2.9	26.9	-5.8	-36.5	-25.0	-20.0	-11.5	-36.5

図表2 【指標別DI値の推移】

	5年		6年		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比
	11月	12月	1月	2月											
売上高	7.7	17.3	-9.8	9.6	-1.9	-9.6	-26.9	-17.3	-5.8	-11.5	-15.4	-9.6	-19.2	-9.6	
在庫数量	-17.1	-14.3	-5.9	-8.6	-8.6	-14.3	-2.9	-2.9	-5.7	-2.9	0.0	-2.9	-2.9	0.0	
販売価格	26.9	25.0	27.5	23.1	25.0	19.2	17.3	28.8	25.0	21.2	26.9	17.3	26.9	9.6	
取引条件	-3.8	-1.9	-5.9	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-15.4	-9.6	-5.8	-13.5	-9.6	-5.8	3.8	
収益状況	-15.4	-15.4	21.6	-19.2	-28.8	-21.2	-40.4	-25.0	-21.2	-26.9	-19.2	-21.2	-36.5	-15.4	
資金繰り	-1.9	-5.8	-7.8	-5.8	-7.7	-9.6	-15.4	-11.5	-11.5	-17.3	-19.2	-21.2	-25.0	-3.8	
設備操業度	-16.0	-8.0	-12.0	-4.0	-16.0	4.0	-8.0	-12.0	-8.0	-4.0	-16.0	-8.0	-20.0	-12.0	
雇用人員	0.0	-3.8	-3.9	-5.8	-11.5	0.0	-5.8	-9.6	-5.8	-3.8	-5.8	-7.7	-11.5	-3.8	
業界の景況	-3.8	-5.8	-23.5	-17.3	-23.1	-23.1	-32.7	-32.7	-34.6	-26.9	-30.8	-28.8	-36.5	-7.7	

特記事項

情報連絡員報告（令和6年11月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	和洋菓子製造業	ここに来てまた、原材料の高騰が続いている。値上げしても嗜好品の菓子類の買控えが不安である。
	めん類製造業	今月は、季節的にも温度が高く、温麺の売れ行きが悪い。ラーメン等の飲食店の売上が思わしくなく、単価アップの割には、売上が伸びなかった。得意先の飲食店においては、後継者難、店主の高齢化問題等で、将来の市場縮小の心配が出ている。小売関係では、ドラッグストアの乱立や食品スーパーが消費者の集客を目的としたディスカウントが目についてきた。そして、仲間の会社の社員も高齢化が進み、入れ替えをしようにも採用難で求人を出しても、応募者が少なく、苦慮している状況。主原料の小麦粉は、小幅な増減があるが、それ以上に他の原材料、資材の値上げ、エネルギーコスト等のアップが続いている。これらのコストアップの環境が続けば、来年には、再度価格改定を検討しなければならない状況にある。
	酒類製造業	原料米の価格上昇が止まらない。商品への価格転嫁が難しい状況で、収益状況は悪化するばかりである。商品の値上げが、消費者の購買意欲の減少につながる恐れがあり、安易に値上げする事が出来ない。
繊維工業	縫製業	年間継続商品の受注数量が予定数量より約2倍になった為、売上が上がった。業界は相変わらず悪い状況が続いている。市況の好転は無く、来年もますます悪化すると考えられる。
	染色整理業	全体的に厳しい状況下にある。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	先日、国内大手の老舗繊維メーカーが繊維事業から撤退し、既存の化学資材事業に特化する方針を打ち出した。レース関係に直接的な影響は出ていないが、関係各所では将来的な事業展開に不安な声を聞く。更なる景気回復と原料価格・物価の安定が遅くなれば、厳しい選択を取らざるを得ない会社も増えるのではと感じている。
木材・木製品	一般製材業	新規住宅着工・改修の需要減少により、引き続き厳しい状況が続いている。工場の稼働率も低下しており厳しい状況が続いている。
	家具・建具製造業	概ね不変の回答が大半であるが、売上高及び在庫数量については増加・減少とする企業もあり2極化の傾向がみられる。収益状況及び業界の景況については悪化とする企業が目立つ。
	木材・木製品製造業	一部木材製品は値上げに転じているものの、需要の活発さがみられない。戸建住宅が減少している為と思われる。仕事のあるビルダーとそうでないビルダーの差が出てきている印象。建材問屋は11月の数字をある程度確保したが非住宅部門に占める割合が増加している印象ではある。梱包材は変わらずの受注量。なお、木材価格の上昇は虫害木の減少により良質の丸太が始めてきた為、大型製材工場が取り合いをしていることで仕入値が上昇しているのではないかと。仕入に合った価格転嫁ができていないかは不明。
印刷	印刷業	郵便料金値上げやDXの進行により、ペーパーレス化が進み、年賀状・紙の伝票・封筒・DMなどが削減されている。カレンダー・チラシ等も前年に比べ低調。インバウンドもあり、観光関連では一定の需要がある。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向け及び建材関係は、昨年に比べ減少。肥料関係は、昨年に比べ増加。全体では、昨年に比べ減少。
	陶磁器・同関連製品製造業	陶器市では17万人の来客があり、組合周辺では、混雑により歩行もできない状況。客店舗売上も良かった話を聞いたが、700テント出店したためお客の分散も見られた。12月からは主だったイベントも無いため県外へと市場を求めていく。組合の売上も下降線を辿る。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	アメリカトランプ政権に向け関税対策の為、輸出駆け込み需要を少し感じた。自動車関連も年末から年明けに向けて減少傾向の見通し。12月からガソリンも更に値上げと厳しい出費。物価高の影響が家計に出ていると社員からも嘆く声があった。経済は真冬だけど気候は暖かい。
	金属製品製造業	売上高はエレベーター部品が減り、給湯器部品が増えた。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、人件費等経費の増加及び人材不足。
一般機器	一般機械器具製造業	じわじわと、電気料金が高騰している。今後、電気の料金系体が変更となるらしく、新電力への移行も含め対応に苦慮している。
	一般機械器具製造業	前月と同様全般的に不変とする組合員企業が多いものの収益状況の悪化とする企業も多く出ている。エネルギー価格の影響懸念との報告も多くあり、また売上高減少を懸念する企業も出ている。仕入れ資材について高止まりとの報告があり、今後の動向が依然として気になる。相変わらず為替相場(円レート)についても気になる。これらの変動が仕入れ資材や諸経費等への影響があり懸念される。引き続き賃金アップ等の対応など、経営基盤の懸念ありとの報告がされている。あくまでも企業間格差がある。今後の受注減少による不安を持つ企業もあり中小企業経営者にとって厳しい日々が続いている。

	一般機械器具製造業	色々な産業界で見直しが行われ下方修正がされている。その結果として全ての業種で停滞しているのが実情。半導体関連は、ひとり気を吐いているような報道がなされているが実情はかわらない。
卸売業	化粧品卸売業	値上げが落ち着いてきた。
	各種商品卸売業	不変とする企業が多く、業況等は前年同期に比べ微増するも不変とする企業が多い。
	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。全体的に荷動きはあまり良くない。燃料価格は、高止まりが続いており、物価高騰と相まって、収益を圧迫している。輸入関連で円安の影響が出ていて、コストが増加している。従業員の人員確保が難しい(募集をかけても集まりにくい。)賃金アップについても対応していく中で、原資の確保の他、労働時間問題についても検討していかなければならないため、課題も多い。
小売業	食肉小売業	全体的に消費が減っている。仕入価格は一向に下がらず、仕入価格が高く売上が上がらない状況。働き方改革で社会情勢が変わってきている。
	その他の小売業	月途中から気温の低下により、ガスの需要が冬季の時期と同様になりつつあり、業界全体が繁忙期に突入した。ただし、原料(LPG)の原価は高止まりであり、需要喚起をしづらい状況が続いている。12月より始まる、栃木県の第四次補助金の効果に期待をしたいと考えている。
	各種商品小売業	11月期小売業の売上動向は、約7～9%前後の減少。依然回復は見られない。特に大型店舗においては、残暖による冬物・服飾小売りは悪化し20%～30%の落ち込みが見られたとのこと。さらに個人消費が停滞し、売上が見込まれない状況。
	各種商品小売業	例年、11月に実施している誕生祭であるが、今年は各イベント催事のおかげもあり、売上前年比100%をクリアすることが出来た。さらに要因として、小売り業界のブラックフライデーが消費者に年々浸透してきている感があり、後半の盛り上がりが大きかった。
	花・植木小売業	夏の高温の影響で、市場への菊・マムなどの主要品目の生育バランスが崩れ、材料確保に苦労した。品質、価格を選んでの材料予定在庫確保が特に難しい。年末商戦に向けて例年よりも早い時期から商品確保に動いている。
サービス業	理容業	オンライン予約システム「ヘアなび」の普及促進セミナーを開催した。大手のシステムと比較すると、目に留まる頻度は多少劣るが、契約料金は安価である。また、店舗やヘアスタイルの写真のみの掲載であれば無料で掲載することが出来る。今後、さらにアピールし営業促進に結び付けられることを期待する。
	自動車整備業	人員の減少があり、仕事量の減少から売上高伸び悩みの状況。
	旅館・ホテル	宿泊は高稼働で推移したがコロナ前とは月ごとの傾向が違ってきているよう感じる。宴会は営業再開した。飲食店は週末は戻ってきた感じがあるが、物価高による利用控えの影響が出ているよう感じる。原材料の高騰も影響が大きい。
	ビルメンテナンス業	宅配関連の倉庫内作業の受託業務が外注費増加等により収益性が低下している。高齢者宅の住宅改修の受注高が、やや減少している。
	給食センター	産業弁当の減少に伴い、事業転換の一環として高齢者向け事業に注力している。環境が移り行く中で対応していきたいと思う。
建設業	職別工事業	工場受注の減少により売上高・収益面においても対前月比マイナスとなる。相変わらず人手不足の傾向が続いている。
運輸業	貨物自動車運送業	年末を迎えるにあたりアルミコイル等の出荷量及び倉入れ量が多くなっている。また、小口の配送量も多くなっているようではあるが波があり、全体としては昨年同様となり荷の動きは今後も期待できず足踏みの状態が続くと思われる。
	貨物軽自動車運送業	食品関係の配送が多い月であった。年末に向けオープンした県内の新規スーパーやリニューアルオープンしたスーパーなどが相次いだため。
	一般乗用旅客自動車運送業	コロナ以降景気はだいぶ回復してきたと見た目にも数字的にも感じられる。JR宇都宮駅周辺やオリオン通り周辺の人の動き、平日にもかかわらず市街地の夕方の道路の混雑などを見ると景気がよくなったのか車社会が一層加速しているのが微妙だが、。餃子店巡り目当ての土日の観光で訪れる人も目立ち、何はともあれ宇都宮に人が増えることは我々タクシー業界にとってもありがたい。
その他の非製造業	大谷石採石業	11月後半から組合員の業況は良くなってきている。観光客は変わらず人気があり、外国人も目立っている。